

～原子力の  
理解を求めて～

# えねるぎーかわらばん

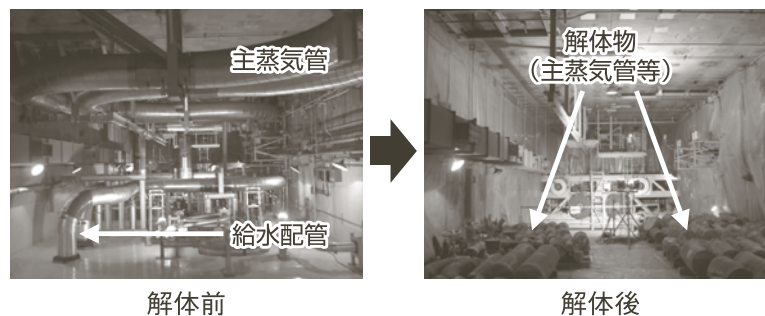
Vol. 50  
福井県原子力平和利用協議会 略称(原平協)  
事務局：敦賀市平和町24-3-1 TEL：0770-24-5450  
http://www1.rcn.ne.jp/~genheikyō/

## 『原子炉廃止措置』ってご存知ですか？

～「ふげん」で廃止措置が始まっています～

### 原子炉廃止措置って何ですか？

「廃止措置」とは、使い終わった原子力発電所などの原子力施設を放射能レベルに応じて、安全に解体撤去することをいいます。「ふげん」の廃止措置は、原子炉等規制法という法律に従って、運転終了後も維持管理が必要な設備についての条件を考慮しながら、安全かつ合理的に施設の解体撤去を進めていく計画となっています。



### 原子炉廃止措置はどこまで進んでいるの？

平成20年2月12日に廃止措置計画が認可され、名称も「新型転換炉(ふげん)発電所」から「原子炉廃止措置研究開発センター(ふげん)」に改められ、廃止措置スケジュールに基づき作業が進められています。

現在では使用済燃料の搬出や重水の回収・搬出などが行われており、更にこれと同時にタービン系統の機器の解体なども行われています。

この廃止措置により発生する解体物の総量は全体で約36万トン。このうち低レベル放射性廃棄物として処理

処分が必要な廃棄物は約5万トンと推定されており、この中でも除染等により放射性物質として扱う必要のないものは約4万トンで、法律に定める所定の手続き及び確認を経た上で施設から搬出され、有効な資源として可能な限り再利用されていくこととなります。

今後は、新しい解体技術などの開発や、国際協力などを行いながら、国内で行われる廃止措置に反映していくという重要な役割を担っています。

### 原子炉施設解体撤去のイメージ(「ふげん」の断面図)

<p>① 使用済燃料搬出期間 (～平成25年度頃)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●使用済燃料搬出、重水搬出を実施</li> <li>●放射能レベルの比較的低い施設・設備及び汚染のない施設・設備を解体撤去に着手</li> </ul>	<p>② 原子炉周辺設備解体撤去期間 (～平成30年度頃)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●原子炉周辺設備の解体撤去</li> <li>●使用済燃料貯蔵プール、熱交換器類、放射性廃棄物貯蔵タンク等の汚染の除去</li> </ul>
<p>③ 原子炉本体解体撤去期間 (～平成39年度頃)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●放射能レベルの比較的高い原子炉領域を解体撤去</li> <li>●汚染した全ての設備・機器を解体撤去後、建屋及び構造物の汚染の除去</li> </ul>	<p>④ 建屋解体期間 (～平成40年度頃)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●建屋解体(平成40年度頃までに完了予定)</li> </ul>

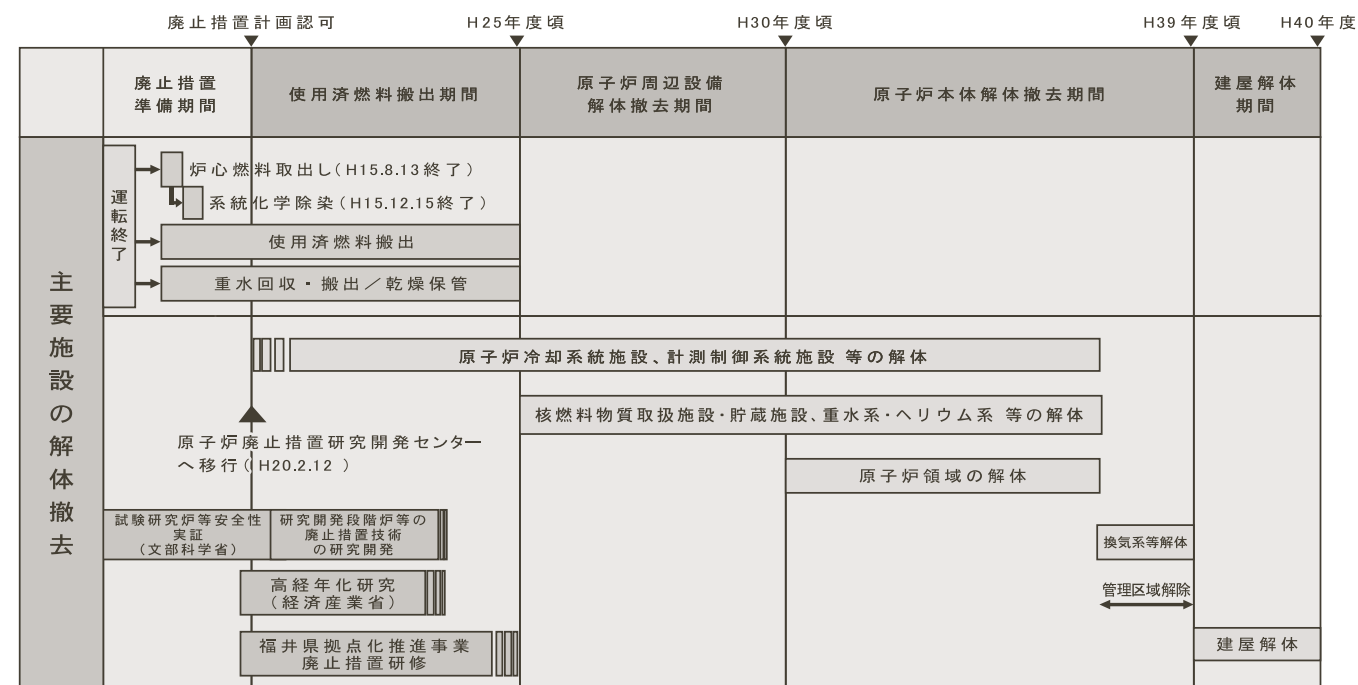
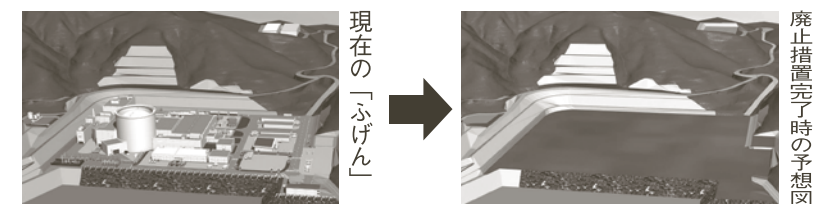
### 原子炉廃止措置研究開発センターの視察研修に参加して

初めて廃止措置の研究開発が行われている旧ふげん発電所へ研修視察に行ってきました。外から見た旧ふげん発電所は、廃止措置研究開発が行われていると言われても、素人目には違いは分かりませんでした。しかし、中に入ってみると、重水を入れるドラム缶がたくさん保管されていたり、配管を切断していたりと、廃止措置の状況を目の当たりにしました。

また、今後原子力発電所が運転終了を迎えた時に備えて、色々なデータを収集したりしていました。私がこの視察で一番驚いた事は、廃止措置で出た廃棄物の大部分が再利用可能だということです。それらの廃棄物は色々な厳しい検査を受け、再利用されるそうです。一人でも多くの人に廃止措置について正しく理解してもらい、これらの廃棄物がリサイクルされ、実用化されるといいなと思いました。(MK)



### 「ふげん」の廃止措置スケジュール

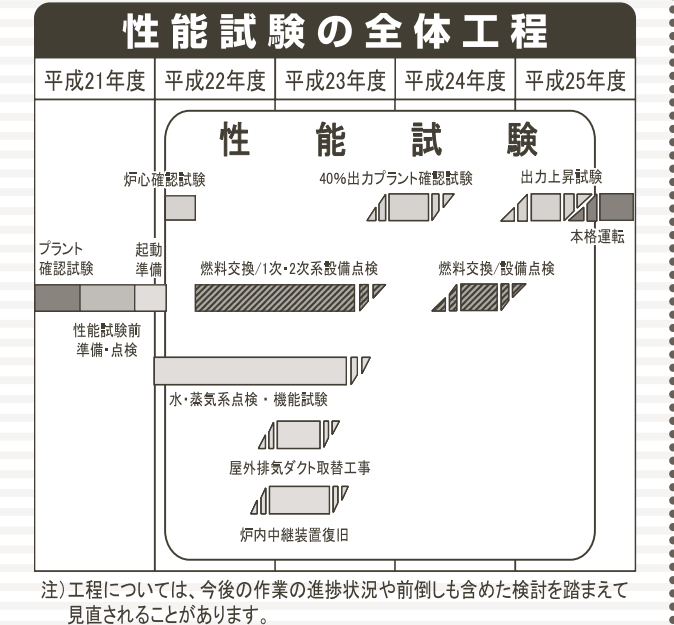


### 時の話題

#### 「もんじゅ」の現状について

高速増殖炉「もんじゅ」においては、昨年8月26日に炉内中継装置(燃料を交換する装置)を落下させてしまうトラブルがありましたが、炉内中継装置と出入孔スリーブ(周りの筒)と一体で引き抜く対策が検討され、その引き抜きの準備が進められています。また、外部有識者からなる委員会から意見や助言を聞き、国の確認も受けながら、計画に沿って引き抜き作業が進められます。昨年末には性能試験の工程が発表されましたが、その工程表の通り、これから40%出力プラント確認試験に向けた動きとして、水・蒸気系の機能試験や屋外排気ダクト取替工事などが本格的に行われます。「もんじゅ」は、フルトニウムを燃料に、発電しながら、その発電で消費した以上のフルトニウムを生み出すことができる重要な原子炉です。これは、日本だけでなく世界のエネルギー基盤を支える技術でもあります。将来の実用化に向け、十分な成果があげられ、安全

を最優先に、私たち福井県民にも身近に感じられるよう、透明性を十分に確保した上で一つ一つ着実に進めて戴きたいと願っています。



注)工程については、今後の作業の進捗状況や前倒しも含めた検討を踏まえて見直されることがあります。

※本紙面の写真並びに図、表については日本原子力研究開発機構出典による。

ちよっと教えて  
～50号を迎えて～

福井県は全国でも有数の原子力発電所が立地している地域です。県民の皆様に原子力発電の正しい知識をもっていただくことや、エネルギー問題への理解促進活動を目的に13年前より、この「えねるぎーかわらばん」を年4回発行し続けてきました。

この間、茨城県東海村のJCO臨界事故(H11.9)では、特集を発行し、原子力防災体制の確立を原平協の意見として掲載しました。関西電力美浜3号機での二次系配管破損事故(H16.8)では、原平協として要請書を関西電力に手渡したことで、「もんじゅ」のしくみ、関西電力高浜3号機で始まっているフルサーマル、原子力発電所の高経年化対策等々をお伝えして参りました。昨年3月迄は新聞折込でしたが、6月からは新聞の紙面に掲載しました。今後ともより多くの県民の方々にご愛読いただき原子力を理解していただけるよう努力して参ります。

次号をお楽しみに…今年6月に掲載予定です。